



チーム一体となつて勝ち取つた「日本一」  
目指すは、未来のサッカー界を担う  
トッププレイヤー!



© SAGAN DREAMS CO.,LTD

昨年12月30日、第44回日本クラブユースサッカー選手権（※U-18）大会決勝が、群馬県立敷島公園サッカー・ラグビー場で行われ、サガン鳥栖U-18がFC東京U-18との激闘を3-2で制し、九州勢初の日本一に輝きました。そして、同大会で最優秀選手（MVP）に選出されたのが、本市出身でサガン鳥栖U-18所属（大会開催時）の永田倅大（こうだい）さんです。

永田さんは、父親の仕事の都合で佐世保市在住中の小学校3年の時に、サッカー部に入部。徐々に才能を發揮した永田さんは、小学校6年生の時には、「プロのサッカー選手になりたい」と思うようになりました。両親の出身地である本市に戻ると、小松原中学校入学と同時に市内のサッカークラブチーム「セレソン都城FC」へ入部しました。



中学2年で最前線の「フォワード」から守備の要である「センターバック」へポジションを変えると、チームの絶対的柱に成長。その後、多くの選手がトップチームであるサガン鳥栖に昇格していた下部組織のサガン鳥栖U-18から声が掛かり、入団を決意しました。

佐賀県佐賀市内の高校進学と同時にサガン鳥栖U-18に加入すると、寮生活を送りながら、厳しい練習を重ねました。実力者ぞろいの同期らが次々と試合に出場する中、「なかなか出場できず歯がゆい思いをした」と話す永田さん。それでも、自分を信じ、ひたむきにトレーニングを続けていた高校1年生の2月、スターティングメンバーに起用。全身全霊で試合に臨んだ結果、レギュ

ラー入りを果たしました。後方の司令塔として不動の存在となつた永田さんは、昨年の夏、Jリーグ出場が可能な選手として2種登録されました。しかし、コロナ禍で、Jリーグの試合は中止に。「念願の舞台に立てず、本当に悔しかった」と、振り返ります。

試合もチーム練習もままならず、不安と焦りが募る中、目の前の課題の克服にストイックに取り組み続けていた昨年11月、半年遅れで第44回日本クラブユースサッカー選手権（U-18）大会が開催。



昨年12月、日本クラブユースサッカー選手権（U-18）大会で日本一に輝いたサガン鳥栖U-18

© SAGAN DREAMS CO.,LTD



第44回日本クラブユースサッカー選手権（U-18）大会優勝・MVP受賞  
サガン鳥栖U-18（令和3年2月卒団）  
永田 倅大（こうだい）さん（18歳）

サガン鳥栖U-18は、全国の強豪チームとの試合を次々と制し、悲願の初優勝を果たしました。「チーム一体となって勝ち取った勝利。MVP受賞は、刺激し合いながら、支え合ってきた仲間がいたから」と満面の笑みを浮かべます。

「得意なプレーはヘディング」と話す永田さんは、サガン鳥栖U-18を2月に卒団し、今春、明治大学に進学します。大学のサッカー部で経験を積みながら、さらに技術を磨き、「トップチームの選手としてサガン鳥栖に戻り、チームに貢献したい」と誓う永田さん。日本のトッププレーヤーとして、その名を轟かせる日が楽しみです。

※U-18…高校生年代